

平成26年度「地域イノベーション戦略推進会議（第2回）」の開催について

1 開催概要

「地域イノベーション戦略推進会議」（平成24年度設置，年3回開催）の平成26年度第2回目を開催し，次のテーマについて意見・情報交換等を行った。

- ① イノベーション・ハブ形成について
- ② イノベーション人材の育成等について
- ③ 産学連携の推進

○ 日 時：平成26年10月31日（金） 13時00分～15時00分

○ 会 場：県庁北館2階 第2会議室

○ メンバー： (五十音順・敬称略)

分野	所属	職名	氏名
産業	株式会社アスカネット	代表取締役社長 兼 最高経営責任者	福田 幸雄
	カイハラ株式会社	代表取締役社長副会長	貝原 潤司
	コベルコ建機株式会社	代表取締役社長	藤岡 純 [欠席]
	シャープ株式会社	執行役員 電子デバイス事業統轄	江川 龍太郎
	マツダ株式会社	代表取締役会長	金井 誠太
大学	広島大学	副学長	岡本 哲司
金融	株式会社広島銀行	代表取締役頭取	池田 晃治
行政	広島県	知事	湯崎 英彦
ファシリテーター (進行役)	広島経済大学	教授 キャリアセンター部長	川村 健一

2 主な意見の内容

- 産学連携を拡大していくには，個別課題の解決に向けた連携から包括的な連携へ，更に産業界全体へと段階的に広げていくべきである。広島らしい特色のある産学連携を県全体に展開するには，県の役割が重要である。
- モノづくり現場の生産性向上には，業務改善の指導者が個人のスタイルや言葉ではなく，技術の原理原則を教えることができるよう，スキルを習得することが必要である。
- イノベーション人材育成については，具体的に進めていくべき。継続した取組にしていくためには，県と民間の役割を決めて体制を作っておく必要がある。
- イノベーションには，「チャレンジさせる人」が必要である。現状は誰かが旗印となってチャレンジを牽引し，成功体験を積み重ねればチャレンジ・マインドが醸成される。自ら「チャレンジする人」が自然発生的に生まれる「イノベーション・エコシステム」の構築に向けてプロセスを描いて取り組んでいく必要がある。

3 今後の開催日程

【第3回】平成27年2月（予定）